

1 「さ・ぬ・き力」(非認知能力)に関する子供(35名)の実態

授業づくりの重点項目		
<p>社交性</p> <p>さ力</p> <p>共感性 協調性</p>	<p>目標への情熱</p> <p>ぬ力</p> <p>粘り強さ 忍耐力</p>	<p>自分を信じる力</p> <p>き力</p> <p>回復力 自制心</p>
<p>「協調性」の自覚度が高い。特に、「友達の意見が自分と違っていても、ちゃんと聞こうとしている」「友達の話を最後まで聞こうとしている」の質問項目の値が高く、グループの話合いでは、他者の意見に耳を傾けて聞くことができている子供が多い。</p> <p>また、「社交性」の自覚度も高く、自分から進んで友達と関わっていったり、意見を進んで伝え合ったりと、友達と協力して活動する姿が多くみられる。</p>	<p>「目標への情熱」の自覚度が高い。特に「新しいことに挑戦するのは好きだ」の質問項目の値が高く、新しい曲に出会って学習に取り組んでいく時や、初めてさわる楽器を演奏する時には、興味を高めてどんどん挑戦していく姿がみられる。</p> <p>「忍耐力」の自覚度は比較的 low、特に「苦手なことにも自分から挑戦している」の質問項目の値が低い。鍵盤ハーモニカの演奏など、苦手だと感じるとやる気を出すのが難しくなってしまう子供も一部見られる。</p>	<p>「自分を信じる力」の自覚度が高い。特に、「自分には得意なことがある」という質問には全ての子供が肯定的に回答した。「回復力」の自覚度は比較的 low、特に「心配に思っていることでも、最後には何とかかなると思える」の質問項目の値が低い。</p> <p>以上の結果から、それぞれの子供にとって得意なことやよくできていることを、教師や友達が客観的な視点で日常的に伝え、物事を前向きに捉えられるようにすることが大切だと言える。</p>

2 教科に関する子供の実態

- ・朝の歌(音楽の授業以外の場面における歌)を歌う時に気をつけていることは何ですか。
 - ①強弱(31名) ②音色(32名) ③速度(28名)
 - ④気持ちを込める(26名) ⑤楽譜通りに正しく歌う(27名)
 - ⑥友達に合わせる(24名) ⑦自分なりの歌い方で歌う(19名)
- ・友達との話合いで自分の考えたことを伝える時は、どんな方法が伝えやすいですか。
 - ①(何も書かずに)言葉で伝える(7名)
 - ②書いたことを見ながら言葉で伝える(32名)
 - ③書いたことを見せる(14名)

3 個別支援が必要な子供の実態

A児…自分の考えへのこだわりが強く、他者の考えをどうしても受け入れられない時があるが、友達が考えつかないような意見を発表し、学級の学びを深めることもある。

第2学年西組 音楽科学習指導案

「歌で思いを表そう～『春がきた』～」

学習指導者 高塚 仁志



1 本題材で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【授業の詳細】

本題材では、歌唱曲に対して「このように歌いたい」という思いをもち、歌い方を工夫することで自分の思いに合った歌を歌えるようになることを目指す。まず、子供たちは範唱を聴いたり、歌ったりする中で曲想を感じ取る。そして、自分が感じた曲想を友達と伝え合うことで、「わくわくする春」「町にだんだん広がる春」といった、グループで表現したい春のイメージを設定する。そのようなイメージに合った歌にするために、歌い方の工夫を考える。そして、グループ内のそれぞれの子供が考えた工夫を聞き、イメージに近付けるためにはどのような歌い方がよいかという視点で話し合い、合意形成を図っていく。例えば、「グループで表したいイメージは『うきうきする春』だね。曲の全体を通してみんなで大きな声を出して歌ったら楽しい感じになるんじゃないかな」「なるほど。私も強弱を工夫することは賛成だけど、うきうきする春が広がっていく楽しさを表すために、『山にきた』のところからは、小さい声からだんだんと大きくしたらいいと思うよ」「それもいいね。歌い比べてどちらがいいか考えてみよう」といった対話や、実際に歌うことを通して、それぞれが考えた工夫がイメージに近づくために有効かどうかを考えていき、グループの歌い方の工夫が深まっていく。その過程で、言葉の反復や呼びかけとこたえの関係、リズムの反復やそれに伴う音高の変化といった『春がきた』の特徴について、個人で気付いていたことを共有し合ったり、新たに見付けたりすることで、曲想の感じ取りが深まり、思いが明確になったり膨らんだりして、さらに工夫を考えていく。題材の終末では、発表会を行って他のグループの様々な工夫を知るとともに、色々な歌を歌う活動を設定し、他の曲でも思いに合った歌を歌えることを経験することで、本題材での学びを深めていく。このように、自分の思いに合わせた歌い方の工夫を学んだ子供たちは、他の歌でも思いを基に工夫して歌ったり、好きな歌を聴く時に、その歌唱表現のよさを感じ取ったりして、身の回りの音楽と豊かに関わっていくだろう。

2 題材計画と働きかけの概要（本時 3/4）

次	学習の流れ	働きかけ
一	<p>① 『春がきた』はどんな歌かな</p> <p>範唱を聴いたり、模唱や暗唱で歌ったりして曲想を感じ取る。感じ取った曲想を話し合うことでグループの歌のイメージを設定するとともに、どのように歌うかについての思いをもつ。</p> <p>② イメージに合った歌い方を考えよう</p> <p>強弱、速度、音色などの様々な工夫をすることでグループの歌をイメージに近づけていく。</p> <p>③ もっとイメージに合った歌い方を考えよう</p> <p>呼びかけとこたえの関係になっている部分を二手に分かれて歌う工夫など、他の班の工夫を知り、既習の強弱、速度、音色も含め、どのような工夫をすればさらにイメージに近づくかを考え、グループの歌に生かしていく。</p>	<p>見通し 情【みんなで歌って確かめタイム】②～④</p> <p>他の班の歌い方を実際に歌ってみることで、様々な工夫の方法があることを知る。㊟学習課題を設定し、工夫を試したいという気持ちを高めている姿に共感する。</p> <p>見通し 信【ミュージズの導き】②～④</p> <p>前時に録音した自分の歌唱に対する教師のコメントを参考にして、本時の課題解決の方法を選択する。㊟自分に合った解決方法が選択できたことを教師が称賛する。</p> <p>行動 協【春くるカード&タイム】①～③</p> <p>歌い方の工夫をカードに書き、その理由を伝え、実際に歌う場を設ける。カードに対して賛成であれば付箋を貼り、グループで歌う際の工夫を決定していく。㊟グループのイメージに合うかどうかという視点で、それぞれの考えを吟味できている姿を教師が称賛する。</p>
二	<p>④ みんなで歌って楽しもう</p> <p>グループごとに歌を発表する。本題材で学んだ歌の工夫を生かし、それぞれの曲想に合った思いをもち、『歌えバンバン』や『オバケなんてないさ』などの色々な歌を歌うことを楽しむ。</p>	<p>振り返り 信【ミュージズの言葉】①～④</p> <p>「解決できたか」「その理由」の質問に対して、2択チャートを使い、二つの観点で振り返る。㊟2択チャートの選択に応じた教師のコメントを用意しておき、それを読ませることによって本時の学習での頑張りを称賛する。</p>

3 本時の学習

目 標	グループのイメージに近付けるための歌い方の工夫について、自分の考えを伝えたり、友達の考えを理解して受け入れたりすることで、グループで合意形成を図りながら歌い方を決定し、歌唱表現に生かすことができる。
--------	---

学習活動と働きかけ		主な子供の意識	
見 通 し	1 学習課題を設定する。 【みんなで歌って確かめタイム】 【目標への情熱】	<p>前はイメージに近付けるためにいろいろな工夫をして歌ったね。</p> <p>他の班はどんな工夫をしていたのかな。</p> <p>歌詞が呼びかけとこたえになっているから、二手に分かれて交互に歌うという工夫ができるんだな。とても楽しい感じになるね。</p> <p>声を強くするという工夫は私も考えていたけれど、だんだん強くするという工夫もできるんだな。だんだん春が近づく感じがしていいな。</p> <p>歌い方を工夫したらもっとイメージに近づいて、もっといい歌になりそうだ。</p>	
		もっとイメージに合った歌い方を考えよう	
行 動	【ミューズの導き】 【自分を信じる力】	<p>ミューズの導きを見てみよう。前回の歌はどんなところがよかったのかな。</p> <p>前は音色がうまく工夫できたから、今日は呼びかけとこたえに挑戦だ。楽しい春を表したいな。</p> <p>前に歌った時は強弱の工夫がよかったから、今日も強弱の工夫をもっと考えてイメージに近づけよう。</p>	
	2 グループのイメージに合った歌い方の工夫を考える。 (1)個人で (2)グループで 【春くるカード&タイム】 【協調性】	<p>イメージは「わくわくする春」だ。</p> <p>音が高くなる所は楽しくはずんだ声を出すとわくわくするよ。</p> <p>交互に歌うのは賛成だ。わくわくする感じがでるからだよ。</p> <p>どちらの工夫も合わせてやってみると「わくわくする春」のイメージにすごく近づいたね。他にも工夫ができそうかな。試してみよう。</p>	<p>「町にだんだん広がる春」を表そう。</p> <p>リズムの反復の所でだんだん声を強くしたら春が広がる感じがするよ。</p> <p>呼びかけと答えをしても、あまり春が広がる感じがしないから反対だ。</p> <p>じゃあ、二手に分かれるのではなくて、歌う人の人数をだんだん増やして、声を強くしてみるのはいかがでしょうか。イメージにきっと合うよ。</p>
振 り 返 り	3 本時の学習を振り返る。 【ミューズの言葉】 【自分を信じる力】	<p>イメージに合った歌い方ができるようになったのは、いい工夫を思いついたからだよ。</p> <p>今日は歌い方の工夫をしっかり考えて、歌をよくすることができたな。友達は発表会をがんばろう。</p> <p>歌がイメージに近づいたのは、私と友達の意見のいいところを合わせて、新しい考えができたからだな。</p> <p>友達と協力すると、いい考えが思いつくことがわかったな。これからも友達と色々なことを考えていきたいな。</p>	

評 価	グループの歌をイメージにより近付けるために、友達と歌い方の工夫を伝え合い、友達の考えを理解して受け入れ、グループの歌い方の工夫を決めている。また、決めた工夫を進んで歌唱表現に取り入れている。 【方法：様相・記述・録音】
--------	--

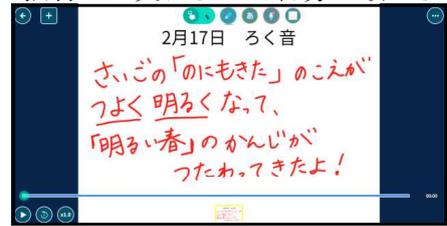
働きかけの詳細資料

～見通し～ 情【みんなで歌って確かめタイム】（2～4時間目）

信【ミュージズの導き】（2～4時間目）

【みんなで歌って確かめタイム】では、前時にそれぞれのグループが考えた歌い方の工夫を、強弱、速度、音色といった要素ごとにいくつか紹介する。全員でそれらの工夫を使って歌うことを試し、板書に示すことで、後に自分のグループに合った工夫を選ぶ際の選択肢となるようにする。それによって新たな工夫の方法を知り、もっと工夫すれば自分のグループのイメージにさらに近付けられそうだという気持ちから、本時の学習課題を設定する。その中で、子供たちの「やってみたい」「イメージに近付きそう」といった言葉に教師が共感することで、興味価値を感じられている姿を価値付ける。

【ミュージズの導き】は、前時のグループ唱を録音して提出した歌に対して、歌い方の工夫の観点で教師が予め書いたコメントを見ることである。例えば、『のにもきた』の声が強くなるようになって、『明るい春』の感じが伝わってきたよ」というコメントを見た子供は、強弱の工夫によって自分の歌がよくなったことを自覚し、「前は強弱で上手くいったから今日は別の工夫をしてみよう」あるいは「私たちは強弱の工夫が上手くできるから、今日も強弱の工夫をさらに考えてみよう」というように本時の解決方法の選択につなげていく。教師は本時の歌の工夫の観点を設定している姿から、自分のグループに合った解決方法を選択できたことを称賛する。



【ミュージズの導き】

～行動～ 協【春くるカード&タイム】（1～3時間目）

見通し場面で選択した歌い方の工夫を、一人一人がカードに書くことで、どのように歌うかについての思いを可視化する。そのカードをグループで見せ合い、考えを伝え合ったり、実際にグループで歌って録音したものを聴いて確かめたりすることで合意形成を図り、グループとしての考えをまとめていく。一枚一枚のカードについて、自分のグループで設定しているイメージに近付けるために有効であると思った段階で付箋を貼り、一人一人の考えの立場を表出できるようにする。グループの合意を得て、グループの歌の工夫として採用されたカードは、イメージを示した札の上に提示することで、実際に歌う際に確認しながら歌えるようにする。教師は、グループ交流中や全体交流時に、グループのイメージに近付けようという目的意識をもって、合意形成をしようとする（していた）姿を称賛する。A児のように他者の意見を受け入れることが難しい子供には、教師が間に入って話を聞き、イメージに近付くかという視点で内容を整理することで、友達の考えのよさを感じられるようにする。



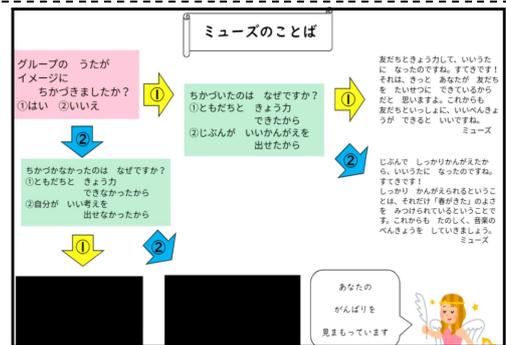
【春くるカード】



【グループのイメージを示した札】

～振り返り～ 信【ミュージズの言葉】（1～4時間目）

学習の振り返りは2択チャートを使って行う。本時は、「グループの歌がイメージに近付いたか」「それはなぜか」という二つの質問によって、学習活動を二つの観点に分けて振り返られるようにする。また、二つの質問への回答後に教師からのコメントを見られるようにしておき、選択した内容に応じた称賛の言葉によって個々を価値付ける。歌がイメージに近付かなかったと感じている子供には、見方を変えて考える視点を教師からのコメントで伝えることでレジリエンスを発揮し、次時の発表会に向けての意欲を高められるようにする。



【2択チャート】